各種公共政策の無駄・不足と投票者の評価をめぐる政治経済学

東京大学大学院経済学研究科　博士課程 2 年
庵原　さおり
E-mail: saori.ihara@gmail.com

報告要旨

本稿は，各種公共政策について，政策の実施水準と一般大衆にとって最適な水準との関係性，及び政策の実施水準と各投票者の政策に対する評価態度とマスメディアによる報道量の関係性に注目し，特に以下示す二つの現象の起こる仕組みを，政治経済学の手法を用いた理論モデルから説明することに試みた．ここで，個別具体的な政策についての近年のマスメディアによる報道を考えると，まず公共投資については「無駄な公共投資（無駄な公共事業）」を伝える報道が，他方看護師数・医師数に関しては「看護師不足（看護婦不足）」や「医師不足」を伝える報道が，特にある時期に多くなされたことを確認できる．そこでこれら具体例をもとに本稿では，ある政策については一般大衆にとって最適な公共財の量（または公共サービスの質）の実現に必要な財源（最適な財源）よりも多くの財源をもとに政策が実施されている一方で，ある政策については，最適な財源よりも少ない財源をもとに政策が実施されていると考えられる事態に注目し，まずこの現象が起こる仕組みの説明を試みた．また，本稿では次に，ある政策について「無駄」・「不足」といった一般大衆にとって最適な財源とは乖離した財源のもと政策が実施されていることを伝える報道があるとき，ある時期に大きく取り上げられてもその後報道量は減少していく事態にも注目し，この現象が起こる仕組みの説明も検討した．

ここで，本稿のモデルに関し簡単に説明すると，本稿は，各種公共政策の実施水準は，二大政党の政治的競争過程を経て実現するものと考え，政治経済学的な分析手法，特に確率投票モデルを用いた分析を行った．以下，本稿で得られた主要な結果をまとめると，まず，各種公共政策の生産に携わる利益集団ごとの特徴（人数，政策への興味の度合い，政策の実施水準の賃金水準への影響の度合い，賃金水準）の違いから，政策の実施水準の大きさでみて優遇されやすい集団と優遇されにくい集団があり，そのためにある政策には「無駄」が生じる一方で，他のある政策には「不足」の事態が起こりうることが分析より得られ，ひとつめの現象を説明できた．また次の結果として，政策の実施水準と一般大衆にとって最適な水準との乖離にマスメディアが気付き多くの報道を行うようになると，より多くの投票者がその政策についても考慮して投票行動を決めるようになるため，最大の得票数を目指す政党は，政策の実施水準を一般大衆にとって最適な水準により近づける政策変更を行い，そしてそれに伴いマスメディアの報道量も減少するという因果関係を導出し，本稿は二つめの現象も説明可能であることを示した．